

資料

1995年喜界島津波について

中村重久*

A notice to the 1995 Kikaijima Tunamis

Shigehisa NAKAMURA*

Abstract: A briefed notice is given for the 1995 Kikaijima tsumanis which occurred on 18th October 1995. The estimated value of 6m is the difference of the highest and lowest sea levels on the coast of Kikaijima just facing the tsunami source. What is important is to be aware of the hazardous events; when and where and how expected.

鹿児島県の奄美諸島は、環太平洋地震帯の一部である。奄美諸島の喜界島 SSE 約 200km の海底で、1995年10月18日19時30分 JST 頃、M 6.5 の地震があり、翌19日11時40分 JST 頃にも地震 (M 6.7) があつた。本文では、この地震にともなう津波について簡単に記入したい。これについては、著者が1995年11月23日に記述したものがあつる。

この地震にともなう津波は、海上保安庁の4検潮所で得られている。すなわち、名瀬(A)、中ノ島(B)、西表(C)、大泊(D)である。検潮記録に認められる津波を Fig. 1 に示した。この図では、主震発生時刻は19時37分である。また、記録からみて津波到達時刻もわかる。名瀬が震源(津波の波源域)に近いけれども、中ノ島より7分もおそく津波が到達しているのは、海底地形や地理的条件と津波の伝播経路との相対的位置関係による。

震源に最も近い喜界島では、この津波による被害が認められた。地震後、大学の調査が実施され、また、気象庁では速報が用意されたが、ここでは、その詳細は省略する。

著者が、地震後、奄美諸島および気象庁の現地調査をし、気象庁や海上保安庁の資料を利用したところ、この地震による津波によって生じた最高海水位は、岸壁上約1m(浦原漁港)である。岸壁天端高が干潮面(工事基準面)上3m、最低海水位推定高は干潮面下2mである。したがって、最高水位と最低水位との差は約6m という

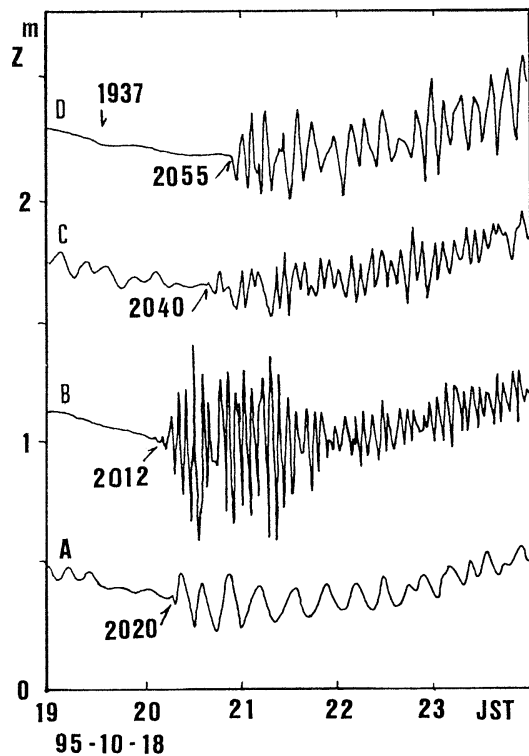


Fig. 1 Tsunamis on 18th October 1995. Stations; Nase, Nakanoshima, Iriomote, and Otomari for the notations of A, B, C, and D. The time of the seismic main shock and the arrival time of the tsunamis shown referring to JST.

*646-0031 和歌山県田辺市湊674-2-A104

ことになる。東京大学, その他の大学の調査では, 津波の最大遡上高の評価に焦点があった。しかし, その詳細がどのような形式で報告されているかは残念ながら不明である。

既往の地震津波の例には, 1911年6月15日(M8.0)がある(たとえば, 宇佐美, 1987)。渡辺(1985)は“奄美大島鎮西村で小津波, 人家過半浸水したといわれている”と記している。

ところで, 波源域の推定は, 現在の地震学的手法のみで十分なのであろうか(たとえば, 中村, 1977)。また, 奄美群島や琉球列島などでは, 本州太平洋沿岸と異なり, 地震計も検潮儀も十分に多いとは言えない。地震の直後に, 津波が, いつ, どこに来襲するか判断できるためには, 現在の先端的手法のほかに, 古典的手法を利用する

必要がある。地震津波対策が適切かどうかは, 地震津波の予測が的確かどうかということにかかっている。さらに, その予測は適時でなくてはならない。

文 献

- 中村重久(1997): 地震津波史料余滴, 田辺(和歌山県), 139p.
宇佐美龍夫(1987): 新編日本被害地震総覧, 東京大学出版, 東京, 434p.
渡辺偉夫(1985): 日本被害津波総覧, 東京大学出版, 東京, 206p.

1997年5月12日受付
1997年5月30日受理